

2012年7月26日

関係各位

野村ホールディングス株式会社  
コード番号8604  
東証・大証・名証第一部

## 野村ホールディングス、2013年3月期第1四半期の連結決算を発表

野村ホールディングス株式会社(グループCEO:渡部賢一)は、本日、2013年3月期第1四半期(2012年4-6月、以下「当四半期」)の連結決算を発表した。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は3,693億円、税前利益は197億円、同社株主に帰属する当期純利益は19億円であった。

同社のグループCEOの渡部賢一は、以下の通りコメントした。

「第1四半期は、厳しい市場環境の中、営業部門、アセット・マネジメント部門が健闘し、3四半期連続で黒字となりました。営業部門では、市場動向の影響を受け、投資信託や株式の募集買付が減少したものの、債券、特に外債の販売が堅調に推移し利益に貢献しました。アセット・マネジメント部門では、投資信託・投資顧問ビジネス共に資金が流入し、安定した利益を計上しました。ホールセール部門は厳しい決算となりましたが、フィクスト・インカムが健闘した一方、コスト削減策を前倒して実行し費用水準を引き下げてきたことで、主要市場の流動性低下や収益機会の縮小の影響を抑えることができました。

最後に、公募増資にかかわる内部者取引事案では、関係各方面に多大なご迷惑をおかけしたことを改めてお詫びいたします。当社は、先般発表いたしました改善策を徹底して実行することにより、資本市場における信頼回復に努めるとともに、継続的に自主点検・調査等を行うことにより、引き続き態勢の強化をはかってまいります所存です。」

### 当四半期決算のポイント

当四半期決算のハイライトは以下のとおり。

	2013年3月期 第1四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	3,693億円	△26%	+12%
税前利益	197億円	△68%	△43%
純利益	19億円	△91%	△89%

- 当四半期の収益は 3,693 億円、税前利益は 197 億円、当期純利益は 19 億円であった。
- 営業部門は、主にマーケット要因により投資信託・株式の募集買付は減少したものの、顧客ニーズに応え、外債を中心とする債券販売が拡大した。
- アセット・マネジメント部門は、投資信託、投資顧問ビジネス共に資金が流入し、安定した収益を確保した。
- ホールセール部門は厳しい決算であったが、フィクスト・インカムが相対的に健闘し、収益を牽引した。
- 2011 年 7 月および 11 月に発表したコスト削減については、営業部門とアセット・マネジメント部門では、販売管理費や事業促進費などの削減をスケジュール通り進めている。削減総額 12 億ドルのうち 10 億ドル超を占めるホールセール部門においては、当初のスケジュールを前倒しで実行し、2012 年 6 月末で削減を完了した。
- 2012 年 6 月末における速報値(バーゼル 2.5 ベース)で、自己資本比率は 17.4%、Tier 1 比率は 15.0%。2012 年 6 月末現在の B/S の資産合計は 35.3 兆円、株主資本は 2.1 兆円、グロスレバレッジは 16.8 倍、調整後レバレッジは 10.6 倍である。

### 当四半期の各部門の状況

#### ● 営業部門

収益合計(金融費用控除後)は827億円、税前利益は122億円であった。

市場環境が、大きく回復した前四半期から厳しくなり、投資家のリスク許容度が低下した影響を受けて減収であった。主にマーケット要因によって投資信託や株式の募集買付は減少したが、外債を中心とする債券販売は拡大した。顧客ニーズに応えるコンサルティング営業を継続した結果、顧客資産は9四半期連続で純増となった。

	2013年3月期 第1四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	82.7	△10%	△12%
税前利益	12.2	△40%	△45%

#### ● アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門の収益合計は前四半期比5%増の164億円、税前利益は前四半期比30%増の54億円と、厳しい市場環境下でも安定した利益を計上した。

投資信託ビジネスでは、公募株式投信を中心に資金が流入した。投資顧問ビジネスにおいても、国内外の年金基金やソブリン・ウェルス・ファンドから新規運用を受託して資金が流入、日本株、アジア株およびグローバル債券でマndateを獲得したほか、米国運用会社のハイ・イールド債券ファンドに欧州やアジアの顧客の資金が流入した。

	2013年3月期 第1四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	16.4	+5%	△13%
税前利益	5.4	+30%	△28%

● ホールセール部門

ホールセール部門の収益は1,219億円、税前損失は86億円であった。フィクスト・インカムが相対的に健闘して収益を牽引したが、主要市場の流動性低下や収益機会の縮小などが、エクイティおよびインベストメント・バンキングの収益に影響した。

- ▶ フィクスト・インカムは、市場取引量の減少によりトレーディングが不振であったが、顧客ビジネスは相対的に堅調であった。地域別では国内フランチャイズとグローバル・プラットフォームの連携が進展し、中でも米州・アジアの収益が堅調に推移した。
- ▶ エクイティは日本・アジア市場を中心に売買代金が低迷、プライマリー案件も少なく、顧客フローからの収益は前四半期比で減少となった。また、主要市場での流動性低下が各地域・ストラテジーに影響し、トレーディング収益も悪化した。
- ▶ インベストメント・バンキングは、ECM ビジネスの収益機会は縮小したが、国内外で複数の大型 M&A 案件を獲得するなどして、グローバルな M&A のリーグテーブルにおいて、昨年の14位から、10位に躍進した。特に、グローバル・フィープールの約18%を占める商社・スポンサー関連ビジネスにおいて、様々な案件を獲得・執行している。

	2013年3月期 第1四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	121.9	△23%	△13%
税前利益	△8.6	—	—

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。

本資料は、米国会計基準による2013年3月期第1四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2012年7月26日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。